資料１

北海道

その先の、道へ。北海道
Hokkaido. Expanding Horizons.

令和７年度（2025 年度）

北海道原子力防災訓練
実施結果報告書

令和８年（2026 年）３月

北海道・泊村・共和町・岩内町・神恵内村・
寿都町・蘭越町・二セコ町・倶知安町・
積丹町・古平町・仁木町・余市町・赤井川村

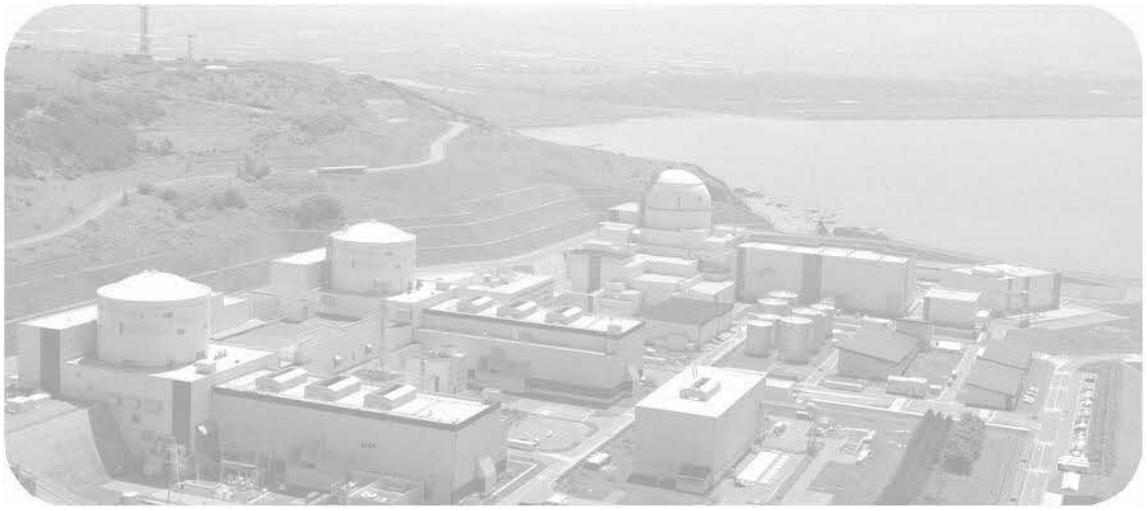
は じ め に

北海道原子力防災訓練は、北海道防災会議が策定した「北海道地域防災計画（原子力防災計画編）」、泊村、共和町、岩内町、神恵内村で組織する泊発電所原子力防災会議協議会が策定した「泊発電所周辺地域原子力防災計画」及び寿都町、蘭越町、ニセコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村が策定した「地域防災計画（原子力防災計画編）」、「泊地域の緊急時対応（国、道及び関係町村の原子力災害対策を一体的に取りまとめたもの）」に基づき、住民避難訓練や災害対策本部の設置運営訓練などを組み合わせて総合的に実施する訓練（以下、「総合訓練」という。）や、要素ごとに実施する訓練（以下、「要素訓練」という。）により構成され、昭和 63 年度以降、毎年度実施している。

今年度の総合訓練は、令和７年（2025 年）10 月に、地震等との複合災害を想定し、意思決定訓練と実動訓練を連動させて１日間の日程で実施した。意思決定訓練では、北海道原子力防災センター（オフサイトセンター）に国や道などの防災関係機関の要員が参集し、地震等との複合災害時における防護措置の調整・確認を行った。実動訓練では、事態の推移に応じて、PAZ と UPZ の区分ごとの段階的な住民避難に加え、地震被害に伴い開設した避難所での屋内退避、孤立地域を想定したヘリコプターによる救出救助を実施したほか、避難バス運転手の安全確保のための情報伝達、さらには避難退域時検査などの原子力災害医療活動に取り組んだ。

また、毎月１回を基本に関係町村・関係機関に設置している「原子力防災ネットワーク専用回線」を使用した通信連絡訓練、緊急時環境放射線モニタリング訓練などを通じて防災業務関係者の技術向上に取り組んだ。

本報告書は、訓練の記録として取りまとめたほか、訓練終了後に関係機関等に行った事後調査等を基に得られた課題等を整理し、今後の訓練や防災対策に資するものである。



目　　次

第１　総合訓練

１　目　　的 ・・・

第１　総合訓練

1　目　　的

防災関係機関が協力して原子力防災対策を円滑に実施できるよう、関係機関の連携、防災業務関係者の防災技術の向上を図るとともに、地域住民の防災意識の高揚や、防災対策に関する理解促進を図る。

2　実施日時

令和７年（2025年）10月29日（水）　８：30　～　15：30

3　主　　催

北海道、泊村、共和町、岩内町、神恵内村、寿都町、蘭越町、ニセコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村

4　場　　所　[実動訓練場所]

泊村、共和町、岩内町、神恵内村、寿都町、蘭越町、ニセコ町、倶知安町、積丹町、古平町、仁木町、余市町、赤井川村、真狩村、留寿都村、札幌市

5　対象施設

北海道電力（株）　泊発電所（３号機）

6　参加・協力機関

防災関係機関等　351機関（防災業務関係者 1,261人）

（１）北海道警察　… <1>

（警察本部、航空隊、札幌方面小樽警察署、札幌方面余市警察署、札幌方面岩内警察署）

（２）北海道教育委員会　… <1>

（北海道教育庁、後志教育局）

（３）市町村　… <23>

札幌市、小樽市、島牧村、黒松内町、真狩村、留寿都村、喜茂別町、京極町、千歳市、北広島市、江別市、洞爺湖町、豊浦町、伊達市、室蘭市、苫小牧市、登別市、壮瞥町、白老町、むかわ町、安平町、厚真町、長万部町

（４）消防機関　… <3>

岩内・寿都地方消防組合（消防本部、岩内消防署、泊支署、共和支署、神恵内支署、寿都支署）、北後志消防組合（消防本部、余市消防署、古平支署、積丹支署、仁木支署、赤井川支署）、羊蹄山ろく消防組合（消防本部、倶知安消防署、蘭越支署、ニセコ支署）

（５）関係省庁　… <3>

原子力規制委員会原子力規制庁、泊原子力規制事務所、内閣府

（6）指定地方行政機関　… <7>

総務省北海道総合通信局、経済産業省北海道経済産業局、国土交通省北海道開発局、国土交通省北海道運輸局、気象庁札幌管区気象台、海上保安庁第一管区海上保安本部、環境省北海道地方環境事務所

（7）自衛隊　… <3>

陸上自衛隊北部方面隊、海上自衛隊横須賀地方隊、航空自衛隊北部航空方面隊

（8）指定公共機関　… <5>

(株)NTTドコモ北海道支社、KDDI(株)北海道総支社、ソフトバンク(株)、東日本高速道路(株)北海道支社、(国研)日本原子力研究開発機構

（9）指定地方公共機関　… <3>

(公社)北海道トラック協会、(一社)北海道バス協会、(一社)北海道建設業協会

（10）公共的団体等　… <9>

古宇郡漁業協同組合、岩内郡漁業協同組合、寿都町漁業協同組合、東しゃこたん漁業協同組合、余市郡漁業協同組合、きょうわ農業協同組合、余市町農業協同組合、新おたる農業協同組合、余市水産加工業協同組合

（11）協力企業等　… <19>

北海道中央バス(株)、札幌観光バス(株)、ニセコバス(株)、札幌第一観光バス(株)、(株)じょうてつ、東芝ＩＴサービス(株)、(株)サイエンスアーツ、三菱重工業(株)、HELICAM(株)、(株)JTB、日本通運（株）、北海道エネルギー(株)、中村建設(株)、アパホテル&リゾート〈札幌〉、(株)シャトレーゼ、(公社)北海道国際交流・協力総合センター、(福）黒松内つくし園本部、湯の里・黒松内、ルスツリゾート

（12）原子力事業者　… <1>

北海道電力(株)（本店、泊発電所）

（13）医療機関　… <9>

北海道大学病院、札幌医科大学附属病院、旭川医科大学病院、北見赤十字病院、北海道社会事業協会余市病院、北海道社会事業協会岩内病院、JA北海道厚生連ニセコ羊蹄広域倶知安厚生病院、（一社）北海道薬剤師会、(一社)北海道放射線技師会

（14）学校・幼稚園・児童福祉施設　… <95>

【泊村】泊村立泊小学校、泊村立泊中学校、とまり保育所

【共和町】共和町立南幼稚園、共和町立中央保育所、共和町立北幼稚園、共和町立へき地保育所、共和町立東陽小学校、共和町立北辰小学校、共和町立西陵小学校、共和町立共和中学校

【岩内町】高田幼稚園、岩内幼稚園、岩内町立岩内東小学校、岩内町立岩内西小学校、岩内町立岩内第一中学校、岩内町立岩内第二中学校、北海道岩内高等学校、いわない東保育所、いわない西保育所、岩内厚生園、児童デイサービスチャレンジキッズどんぐり、ファミリーホームろっく、(特非)はなうた・はみんぐfunいわない

【神恵内村】神恵内保育所等複合施設、神恵内村立神恵内小学校、神恵内村立神恵内中学校

【寿都町】寿都町立寿都小学校、寿都町立潮路小学校、寿都町立寿都中学校、北海道寿都高等学校

【蘭越町】蘭越ひばり幼稚園、蘭越町立蘭越小学校、蘭越町立昆布小学校、蘭越町立蘭越中学校、北海道蘭越高等学校、蘭越保育所、北海愛星学園、昆布保育所

【ニセコ町】ニセコ町幼児センター、ニセコ町立ニセコ小学校、ニセコ町立近藤小学校、ニセコ町立ニセコ中学校、ニセコ町立北海道ニセコ高等学校、北海道インターナショナルスクールニセコ校

【倶知安町】倶知安幼稚園、倶知安藤幼稚園、倶知安めぐみ幼稚園、倶知安町立倶知安小学校、倶知安町

立西小学校、倶知安町立西小学校樺山分校、倶知安町立北陽小学校、倶知安町立東小学校、倶知安町立倶知安中学校、北海道倶知安高等学校、北海道倶知安農業高校、くっちゃん保育所ぬくぬく、児童チャレンジサポートさやえんどう、羊蹄山ろく発達支援センター

【古平町】古平町立古平小学校、古平町立古平中学校、認定こども園ふるびら幼児センターみらい、こどもホーム

【仁木町】仁木町立銀山小学校、仁木町立仁木小学校、仁木町立銀山中学校、仁木町立仁木中学校、にき保育園、櫻ヶ丘学園、大江へき地保育所、銀山へき地保育所

【余市町】余市町立黒川小学校、余市町立大川小学校、余市町立沢町小学校、余市町立登小学校、余市町立旭中学校、余市町立東中学校、余市町立西中学校、北海道余市紅志高等学校、北海道余市養護学校、(福)徳風会ほうりゅうじ保育園、北後志母子通園センター、余市町立中央保育所、余市町立大川保育所、北星学園余市高等学校、(学)余市杉の子学園杉の子幼稚園、(学)北海道キリスト教学園リタ幼稚園、(学)夢の森学園夢の森幼稚園、余市町沢町児童館、 (福)よいち福祉会地域小規模児童養護施設さくら、(特非)どんぐり

【赤井川村】赤井川小学校、都小学校、赤井川中学校、赤井川へき地保育所

(15) 病院・社会福祉施設　… <127>

【泊村】泊村養護老人ホームむつみ荘、泊村特別養護老人ホームむつみ荘

【共和町】地域活動支援センター前田の家、共和町いきいきセンター、共和町特別養護老人ホームみのりの里共和

【岩内町】(医)岩内大浜医院、岩内あけぼの学園、ベーカリーサンライズ、介護老人福祉施設岩内ふれ愛の郷、介護老人保健施設コミュニティホーム岩内、岩内町デイサービスセンター、介護付有料老人ホーム七福神恵比寿館

【神恵内村】介護老人保健施設神恵内ハイツ９９８

【寿都町】歌棄慈光園、ワークランド歌棄、寿都浄恩学園

【蘭越町】(医)静和会昆布温泉病院、蘭越診療所、特別養護老人ホーム一灯園、高齢者グループホームらんこし、蘭越町通所介護事業所こんぶ、高齢者生活福祉センターこんぶ、地域密着型特別養護老人ホーム一灯園ほのぼの館

【ニセコ町】 (特非)ニセコ生活の家、特別養護老人ホームニセコハイツ、(福)ニセコ福祉会ニセコ町デイサービスセンター、(福)ニセコ福祉会ニセコ町グループホームきら里

【倶知安町】ニセコ羊蹄広域倶知安厚生病院、障がい者就労支援施設羊蹄セルプ、グループホームそら、グループホームかぜ、グループホームゆめ、福祉ホーム羊蹄、共同生活援助事業あゆ～む、障がい者就労支援事業所ワークショップようてい、グループホームよろこび（グループホームよろこび、グループホームまどか、グループホームえがお、グループホームここに、グループホームしずく）、ワークステーション輝、夢の匠、羊蹄ハイツ、デイサービスセンター羊蹄ハイツ、介護老人保健施設麓華苑、グループホーム羊蹄、デイサービスろっかえん、倶知安町老人デイサービスセンター、リハビリ特化型サービスリハホース

【古平町】(福)古平福祉会、共働の家、ルピナスの家、白かば寮、きぼう寮、みずき寮、から松寮、若者宿、かえで寮、あじさい寮、よろこび寮、地域生活総合支援センターいこいの家、みっくすべジタ、旧きょうどう作業棟、つどい、ぱれっと、つむぎ、はまよん寮、はま２寮、さわえ寮、さわえ２寮、さかた寮、はまさん寮、いましろ寮、はちの巣寮、きょうどう、古平町高齢者生活支援センター元気プラザ、古平町デイサービスセンター、夕凪、朝凪、デイサービスセンターのどか、グットケア、ほほえみくらす、古平町立診療所海のまちクリニック

【仁木町】(医)森内科胃腸科医院、(福)後志報恩会銀山学園、(福)後志報恩会大江学園、(福)後志報恩会えんれいそう、(福)後志報恩会陽だまり、(福)後志報恩会ふきのとう、あんごの森「銀山」、回復の森「銀山」、(福)仁木福祉会グループホーム仁木やすらぎの里、(福)仁木福祉会デイサービス仁木やすらぎの里、(福)仁木福祉会仁木長寿園

【余市町】余市幸住学園、余市豊浜学園、あおぞら、フルーツ・シャトーよいち、徳風会かるな和順、(特非)ロータス会、グループホーム夢、デイサービスひかり、でいさぁーびす笑、小規模多機能型住宅介護事業所ほっとハウスよいち、サービス付高齢者住宅ふるーつの郷、介護医療院なかじま、中島内科、有料老人ホームみどり、(特非)後志地域サポートセンターたね、(特非)樹の杜、(福)恵盛会希望の家余市作業所、(特非)余市はまなす、(医)健志会介護老人保健施設よいち、デイサービス花ごころグループホームこもれび、グループホームポランの家、住宅型有料老人ホームＧＲＡＣＥガーデンモイレ、ハッピーサポート花ごころ、リハビリデイサービス花ごころ、サポートセンターたねまーぶる、グループホーム（ポプラ・さくら・ひのき・けやき・メープル・オリーブ）、グループホーム美憂さくらんぼ、グループホームなかじま、デイサービス花ごころ、よいち銀座はくちょう、介護医療病院こじま、リハポート余市、北海道社会事業協会病院、林病院、小嶋内科

【赤井川村】グループホームあまらんす、グループホームあまらんす２号館

(16) その他　… <42>

【泊村】泊村社会福祉協議会、泊村商工会

【共和町】共和町農業開発センター、共和町学校給食センター、西村計雄記念美術館、共和町かかし古里館、共和町社会福祉協議会、共和町商工会、ワイス温泉

【岩内町】岩内地域人材開発センター、(株)いわない高原ホテル、いわない温泉高島旅館、いわない温泉おかえりなさい、ホテルいのう、ホテルENVY、ホテルENVY（新館）、ベイホテルいわない、岩内町老人福祉センター、働く婦人の家、岩内商工会議所、いわないマリンホテル

【神恵内村】民宿きのえ荘、旅館恵比須屋

【古平町】古平町商工会、ふるびら温泉しおかぜ

【仁木町】(福)仁木町社会福祉協議会、仁木町商工会、(有)五共ハイヤー、(特非)銀山さわやか福祉NPO、仁木町観光協会

【余市町】余市商工会議所、日本郵便(株)余市郵便局、余市カントリー(株)（エーヴランドホテル&ゴルフクラブ）、ニッカウヰスキー(株)北海道工場、Yoichi LOOP、ゲストハウス余市、民宿 とよはま、ホテル水明閣、プチホテル ノースショア、民宿くどう、余市観光協会

【赤井川村】合同会社キロロリゾート

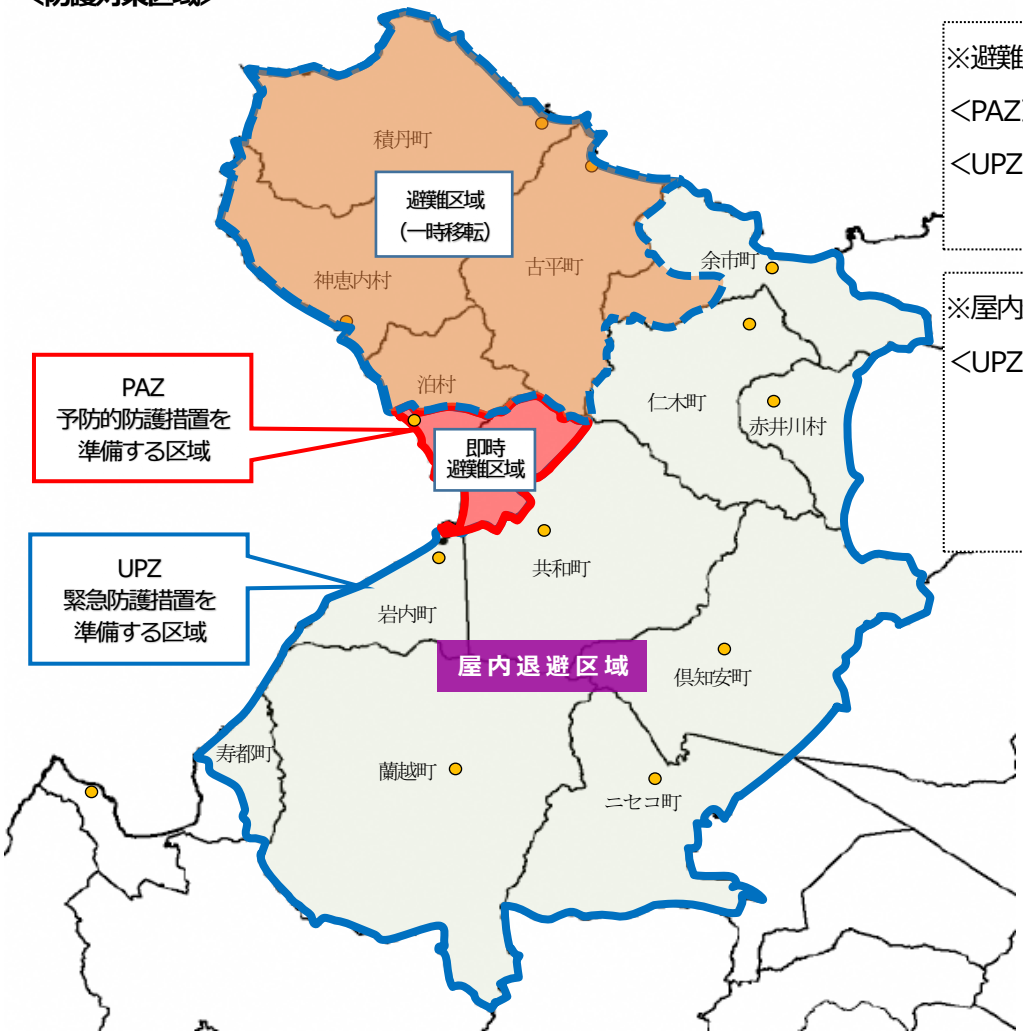
7　訓練想定

北海道南西沖を震源とする地震が発生し、津波警報が発表される。地震後、北海道電力(株)泊発電所３号機において、設備故障により、原子炉の一次冷却材が漏えいし、原子炉が停止。複数の設備故障により原子炉の冷却が不能となったことにより、原子力災害に至る。

時　刻	事　　態	事故想定	要請・指示	対象自治体
10/28 8:00	地震発生→津波警報発表→警戒事態発生通報 EAL(AL)〔警戒事態〕	最大震度7の地震発生（泊村：震度６弱）	連絡体制の確立	関係13町村
17:00	津波注意報発表 （津波警報から切替）			
10/29 1:10		泊発電所３号機の定格熱出力一定運転中に、一次冷却材漏えい（1・2号機は停止中）		
1:30	EAL(AL)〔警戒事態〕 警戒事態発生通報	一次冷却材の漏えい量が増加し、原子炉自動停止。その後、加圧器水位低下のため非常用炉心冷却設備が作動	PAZ要避難者の避難準備	PAZ(泊村・共和町)
3:00	EAL(SE) 〔施設敷地緊急事態〕 原災法第10条事象の発生通報	設備故障により、非常用炉心冷却設備による原子炉への注水が一部不能	PAZ要避難者の避難 PAZ住民の避難準備 UPZ住民の屋内退避準備 *※避難は避難経路等の安全を確認の上、実施することとし、それまでの間は、屋内退避を継続。*	PAZ(泊村・共和町) UPZ(関係13町村)
4:00 ※想定	津波注意報解除			
8:30 **訓練開始**				
8:45	※道路啓開情報の受理		PAZ要避難者避難開始	PAZ(泊村・共和町)
9:00	EAL(GE)〔全面緊急事態〕 原災法第15条事象の発生通報 →原子力緊急事態宣言発出	さらなる設備故障により、非常用炉心冷却設備による原子炉への注水不能	PAZ住民の避難 UPZ住民の屋内退避 *※避難は避難経路等の安全を確認の上、実施することとし、それまでの間は、屋内退避を継続。*	PAZ(泊村・共和町) UPZ(関係13町村)
10:30時点で時間を２日間スキップ（放射性物質放出からOIL２超過区域の特定まで） 〈この間に放射性物質の放出・収束〉				
11:00			UPZ一部区域（OIL2超過区域）住民の一時移転	UPZ(泊村、神恵内村、積丹町、古平町、余市町)
12:30	事故収束（格納容器スプレイの継続）の連絡	格納容器スプレイの継続により、格納容器圧力、温度の顕著な低下を確認（事態収束の方向）		
15:30 **訓練終了**				

＊原子力発電所では、事故発生に備え、何重もの安全装置が設置されている。今回は事故想定に沿って、これらの安全装置が故障により正常に作動しない事態を想定する。

<防護対策区域>

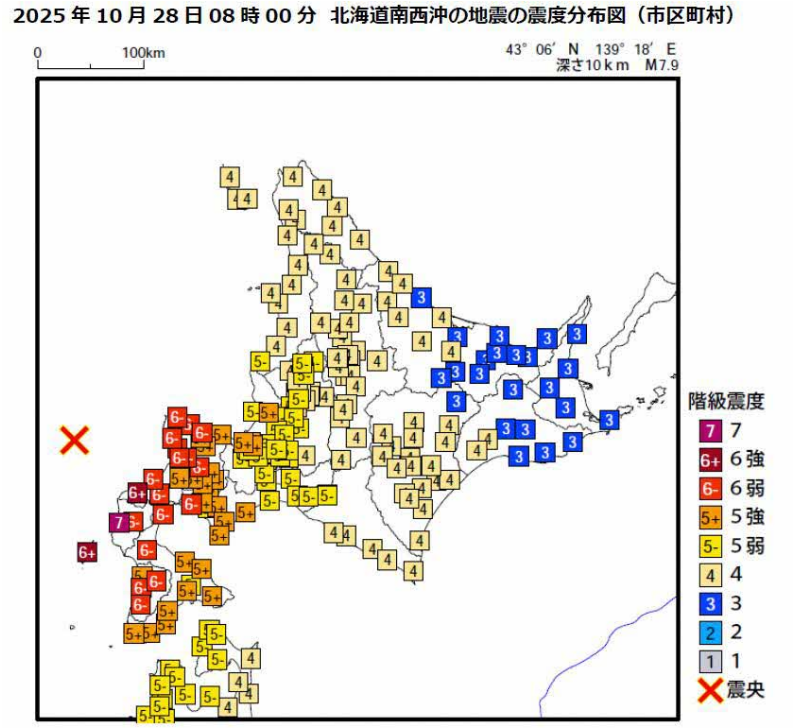


※避難対象自治体
<PAZ>泊村、共和町
<UPZ>神恵内村、積丹町、古平町、
余市町

※屋内退避対象自治体
<UPZ>共和町、岩内町、寿都町、
蘭越町、ニセコ町、
倶知安町、仁木町、
赤井川村

<地震想定>

2025年10月28日08時00分 北海道南西沖の地震の震度分布図（市区町村）



8　訓練内容

（1）重点活動項目

次に掲げる事項を重点活動項目として、災害対策本部の設置運営訓練及び住民避難訓練などの要素訓練を組み合わせた総合訓練を実施した。

<重点活動項目>

◆緊急事態応急対策等拠点施設（OFC）運営訓練
- 各機能班を設置し、事故の状況や防災関係機関の対応状況の収集・整理
- OFC 機器等を活用した各機能班相互の情報共有
- 地震等との複合災害時における防護措置に係る防災関係機関との対応の調整

◆住民避難訓練
- バス避難のための集合場所の開設
- 避難所の開設・運営
- 空路を用いた孤立地区等の住民避難

◆緊急時環境放射線モニタリング訓練
- 緊急時モニタリングセンター（EMC）を拠点としたモニタリングの統括、関係機関との連携
- 緊急時モニタリング実施内容の検討（実施計画案の修正）、指示及び情報伝達
- 空間放射線量率の測定、環境試料の採取・分析

◆原子力災害医療活動訓練
- 医療機関への患者搬送、医療措置
- 安定ヨウ素剤の緊急配布
- 避難退域時検査場所の開設・運営

（2）各要素訓練

訓練項目ごとに主要活動項目を設定し、その活動に必要となる対応動作や手順の確認を行った。

ア　災害対策本部等設置運営訓練

道及び関係13町村は、災害対策本部を設置し、事態の推移に応じて本部員会議やTV会議を開催し、本部内や防災関係機関と情報共有を図った。

機　　関	主 要 活 動 項 目
北　　海　　道 北海道教育委員会 北海道警察本部	<本庁> □道災害対策本部の設置・運営 □道本部員会議の開催（3階テレビ会議室） □TV会議［道庁－OFC－関係13町村］による情報共有と対策の確認 □住民避難用バスの手配等に係る連絡調整
	<OFC> □道現地災害対策本部の設置・運営 □住民避難用バスの手配等に係る連絡調整
関 係 13 町 村	□各町村災害対策本部の設置・運営 □TV会議［道庁－OFC－関係13町村］による情報共有と対策の確認 □住民避難用バスの手配等に係る連絡調整
原 子 力 事 業 者	□本店及び泊発電所にて原子力災害対策本部の設置・運営

<道災害対策本部員会議>



<道災害対策本部（指揮室）>



<道現地災害対策本部（OFC 内）>



<災害対策本部員会議（泊村）>



<災害対策本部員会議（共和町）>



<災害対策本部員会議（余市町）>



イ　緊急事態応急対策等拠点施設（OFC）運営訓練

OFCに、国、道、関係13町村及び防災関係機関から、あらかじめ定められた要員（29機関252人）が参集し、各機能班を設置するなどして、事故の状況や防災関係機関の対応状況を把握しながら必要な情報共有を図り、地震等との複合災害時における防護措置の調整・確認を行った。

機　　関	主　要　活　動　項　目
内　　閣　　府 原子力規制庁 泊原子力規制事務所 北　　海　　道 関係13町村 防災関係機関 原子力事業者	□各機能班を設置し、事故の状況や防災関係機関の対応状況を収集・整理 □OFC 機器を活用した各機能班相互の情報共有 □地震等との複合災害時における防護措置に係る防災関係機関との対応の調整 □事態の推移に応じた防護措置の作成・取りまとめ □原子力災害合同対策協議会の開催 □TV会議［道庁－OFC－関係13町村］による情報共有と対策の確認 □道路カメラからの映像伝送による情報収集

<原子力災害合同対策協議会>



<班長会議による情報共有>

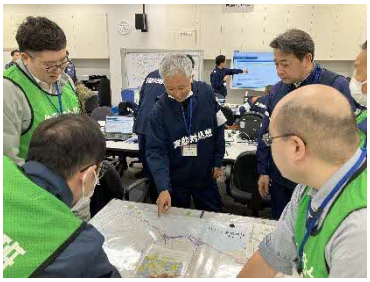


<TV会議による情報共有>

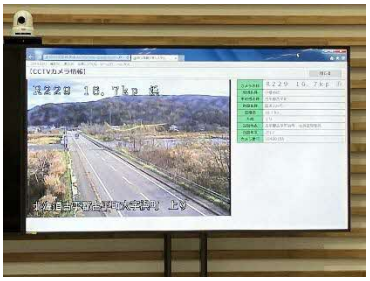


<住民避難経路の調整>





<映像伝送による避難経路等の共有>



道路カメラ

<機能班の活動>



実動対処班



総括班



医療班

ウ　緊急時通信連絡訓練

各種通信手段を用いた事故状況や対応状況等に関する防災関係機関相互の通報連絡及び関係機関への情報伝達を実施した。

機　　関	主　要　活　動　項　目
全　　機　　関	□電話及びFAX（一般回線及び専用回線）、防災行政無線を用いた防災関係機関相互の通報連絡 □避難先自治体等への事故状況の伝達や避難受入要請

<関係機関への連絡>



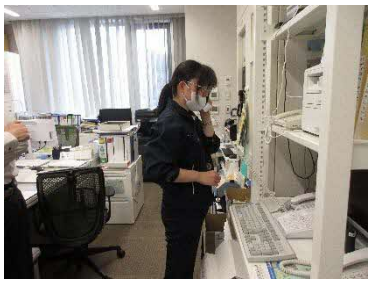
OFC 医療班

<関係機関への連絡>



積丹町

<関係機関への連絡>



神恵内村

エ　緊急時環境放射線モニタリング訓練

国の統括のもと、OFC内に緊急時モニタリングセンター（EMC）を設置し、国、道、関係13町村、原子力事業者、関係指定公共機関と連携して、緊急時における環境放射線のモニタリング活動を行った。

機　　関	主　要　活　動　項　目
原子力規制庁 北　　海　　道 関係13町村 原子力事業者	□EMCを拠点としたモニタリングの統括、関係機関との連携 □緊急時モニタリング実施内容の検討（実施計画案の修正）、指示及び情報伝達 □緊急時モニタリング実施計画に基づく空間放射線量率の測定、環境試料の採取・分析（測定154地点・2ルート） □放射線モニタリング情報共有システム等によるモニタリング情報の収集、整理、確認及び報告 □OFC放射線班等への緊急時モニタリング結果の提供及び情報共有 □緊急時モニタリング要員の被ばく管理

<EMC の活動>



OFC

<可搬型ﾓﾆﾀﾘﾝｸﾞﾎﾟｽﾄ設置>



余市町

オ　広報訓練

関係13町村の住民等に対し、防災行政無線や広報車等による広報のほか、緊急速報メールなど多様な手段を活用した広報を実施した。

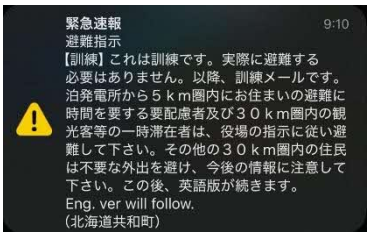
機　　関	主　要　活　動　項　目
北　　海　　道 関　係　１　３　町　村 防　災　関　係　機　関	□防災行政無線や広報車等による住民広報 □電話及びFAX（一般回線）等を用い、関係13町村の要配慮者施設（医療機関・社会福祉施設等）や宿泊施設に対する情報伝達 □緊急速報メールを活用し、多言語による避難指示等を配信 □道ホームページ・X等を利用した多言語による情報発信

<広報車による住民広報>

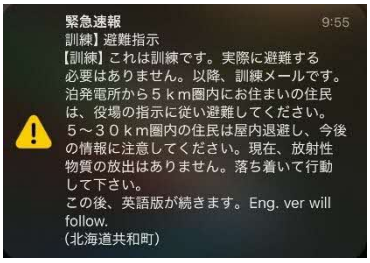


共和町

<緊急速報メール>

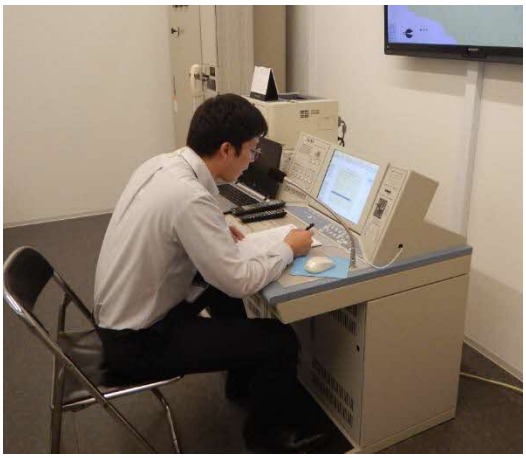


SE要配慮者避難指示　　共和町



PAZ住民避難指示　　共和町

<防災行政無線による住民広報>



古平町

<X発信>



北海道

カ　住民避難訓練

原子力災害対策指針に定められた防護措置の判断基準（EAL、OIL）を基本として、地震等との複合災害時において防災関係機関と連携しながら、各町村の避難計画に基づき、住民等の安全確保を優先して屋内避難や避難等の防護措置を段階的に実施した。

機　　関	主 要 活 動 項 目
北　　海　　道 関 係 １ ３ 町 村 防 災 関 係 機 関	□バス避難のための集合場所の開設（レイアウト図の掲示） □バス等を利用した避難 □要配慮者（児童や社会福祉施設入所者など）の屋内退避・避難 □放射線防護施設における屋内退避・出入管理 □避難受入自治体の協力による一時滞在場所の設置・運営 □避難所の開設・運営（地震により自宅での屋内退避が困難となった場合の避難所開設、外国人への多言語による情報伝達） □空路を用いた孤立地域等の避難 □ドローンによる災害対応 □衛星通信を活用した通信環境の確保 □避難経路確保のための道路啓開 □警察官による緊急迂回路誘導 □バス運転手等民間事業者の防護対策（車両動態管理及び情報伝達）

●参加者数9,551人（住民避難472人、屋内退避9,079人）

【避難指示区域】　　※（　）内は屋内退避者

区分	町村名	避難者数	避難方法
PAZ	泊　村	130　（　－　）	バス６台、普通車両３台、福祉車両２台
	共和町	101　（　450）	バス９台、普通車両４台、福祉車両１台
UPZ	泊村	2　（　－　）	バス１台
	神恵内村	19　（　202）	バス２台、普通車両１台 北海道警察ヘリコプター１機
	積丹町	26　（　－　）	バス３台 自衛隊ヘリコプター１機、
	古平町	26　（　619）	バス２台、普通車両１台
	余市町	88　（1,000）	バス２台
	その他	80　（6,808）	バス１台、普通車両５台、福祉車両１台
合　計		472　（9,079）	バス26台、普通車両14台、福祉車両４台、自衛隊ヘリコプター１機、北海道警察ヘリコプター１機

＜集合場所の受付（余市町）＞



余市町総合体育館

＜バスによる避難（神恵内村）＞



神恵内村役場

＜一時滞在場所の受付＞



札幌市東区体育館

＜避難所の開設・運営＞



余市町総合体育館

＜外国人への多言語による情報伝達＞



余市町総合体育館



北海道国際交流・協力総合センター（HIECC）

＜放射線防護施設における屋内退避＞



みのりの里

＜自衛隊　ヘリコプターによる救助＞



日司地区緑地広場

＜北海道警察　ヘリコプターによる救助＞



珊内防災広場

＜ドローンによる災害対応（物資搬送）＞



マリンハウス古平



共働の家

＜ドローンによる災害対応（住民広報）＞



共働の家

＜避難経路確保のための道路啓開＞



小樽建設管理部余市出張所

＜警察官による緊急迂回路誘導＞



避難経路（小樽市）

＜バス運転手への防護対策等の説明＞



北後志消防組合余市消防署

キ　原子力災害医療活動訓練

関係医療機関等と連携して原子力災害時における医療活動を行った。

機　　関	主　要　活　動　項　目
北　　海　　道 関　係　町　村 関 係 医 療 機 関 防 災 関 係 機 関 原 子 力 事 業 者	□安定ヨウ素剤の緊急配布 □避難退域時検査場所［北海道立総合研究機構中央水産試験場］を開設し、避難車両や避難住民の検査、簡易除染 □医療機関［岩内協会病院、北海道大学病院］への患者搬送（発電所内被ばく傷病者）と受入施設での医療措置

<安定ヨウ素剤の緊急配布>



岩内町老人福祉センター

<避難車両の検査（ゲート型モニタ）>



中央水産試験場



中央水産試験場

<避難車両の検査（サーベイメータ）>



中央水産試験場



中央水産試験場

<避難車両の除染>



中央水産試験場

<避難車両の除染>



中央水産試験場

<避難住民の検査>



中央水産試験場

<避難住民の簡易除染>



中央水産試験場

<原子力災害医療協力機関での被ばく傷病者受入れ>



岩内協会病院



岩内町新港東ふ頭



北海道大学病院

ク　物資緊急輸送訓練

避難所や一時移転指示区域内で屋内退避を継続している住民を支援するため、必要な飲食物等の生活必需物資の緊急輸送を実施した。

機　　関	主　要　活　動　項　目
北　　海　　道 関　係　町　村 防 災 関 係 機 関 原 子 力 事 業 者	□陸路による物資緊急輸送 □ドローンによる物資等輸送 □放射線防護施設への物資・燃料の緊急輸送 □輸送を担う民間事業者の防護対策

<ドローンによる物資等輸送>



古平福祉会　共働の家

<放射線防護施設への物資緊急輸送>



養護老人ホームむつみ荘

<放射線防護施設への燃料供給>



養護老人ホームむつみ荘

ケ　その他

（事故拡大防止訓練）

泊発電所において、使用済燃料ピット(ＳＦＰ)からの大規模漏えいが発生した場合に、使用済燃料の損傷緩和および大気への放射性物質拡散抑制のため、可搬型大型送水ポンプ車および可搬型スプレイノズルを利用し、屋外からＳＦＰへのスプレイを実施した。

（住民研修会）

原子力防災対策に係る知識の普及啓発を図るため、原子力防災に関する住民研修会を開催した。

<可搬型大型送水ポンプ車による使用燃料ピット（ＳＦＰ）スプレイ>





北海道電力㈱

<共和町の住民研修会>



ルスツリゾート

<余市町の住民研修会>



東区体育館

9 訓練イベント時刻

＜意思決定訓練＞

場所	官邸・ERC （本訓練ではOFC）	北海道原子力防災センター （OFC）	北海道災害対策本部 （道庁）	町村災害対策本部 （関係13町村）
実施内容等	○原子力災害合同対策協議会全体会議（TV会議）	○原子力災害合同対策協議会全体会議 （TV会議） ○各機能班活動	○災害対策本部員会議 ○原子力災害合同対策協議会全体会議 （TV会議） ○指揮室運営	○災害対策本部員会議 ○原子力災害合同対策協議会全体会議 （TV会議）　等

8:30 **訓　練　開　始**

9:30 9:30　緊急事態宣言

官邸（TV会議）／副知事 副町村長ほか／**9:35～9:45 第1回原子力災害合同対策協議会全体会議**／知事（TV会議）／13町村長（TV会議）

副知事／9:45～10:00 道災害対策本部員会議／知事

9:45～10:00 町村災害対策本部員会議

10:00





10:30

48時間経過を想定

11:00

副知事 副町村長ほか／**11:00～11:15 第×回原子力災害合同対策協議会全体会議**／副知事（TV会議）／13町村長（TV会議）

副知事／11:15～11:30 道災害対策本部員会議／副知事

11:15～11:30 町村災害対策本部員会議

11:30



12:00



15:00 副知事 副町村長ほか／**15:00～15:30 第Y回原子力災害合同対策協議会 全体会議**

15:30 **訓　練　終　了**

＜実動訓練＞

実施内容等	実　動　訓　練
8:30	訓　練　開　始

放射線防護施設の運営
【泊村】
泊村役場　8:40～9:10
【共和町】
共和町保健福祉センター
8:45～10:10
国富地区防災センター
10:20～11:55
【余市町】
余市豊浜学園
10:00～10:40

PAZ施設敷地緊急事態要配慮者　屋内退避
【共和町】
農業開発センター　～
共和町保健福祉センター
9:30～10:00

放射線防護施設でのエアテント展開
【古平町】
共働の家　10:00～11:30

PAZ住民　避難開始
【泊村】
泊村公民館　10:25～
照岸・糸泊地区集会所　10:25～
【共和町】
ほくでん体育館　10:25～
リ3会館　10:25～

警察官による避難経路緊急迂回誘導



避難経路
（神恵内村～札幌市）
11:15～13:00

UPZ要配慮者移転
【古平町】
地域福祉センター
13:20～13:50

安定ヨウ素剤緊急戸別配布
【共和町】
8:55～

PAZ施設敷地緊急事態要配慮者　避難開始
【泊村】
泊村養護老人ホームむつみ荘
～　黒松内つくし園

孤立住民救出(ヘリ)



【積丹町】
日司地区緑地広場　離陸
9:45
【余市町】
アップルポート余市　着陸
10:00

放射線防護施設損壊に伴う要配慮者移転
【共和町】
みのりの里共和
～　国富地区防災センター
10:20～11:45

道路啓開



【余市町】
小樽建設管理部
余市出張所等
11:00～11:50

放射線防護施設への物資緊急輸送・燃料供給





【泊村】
養護老人ホームむつみ荘
特別養護老人ホームむつみ荘
13:35～14:15

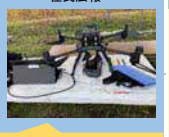
PAZ施設敷地緊急事態要配慮者　避難開始
【泊村】
とまり保育所　9:15～
泊小学校　9:15～
泊中学校　9:15～
【共和町】
北辰小学校　9:20～
ほくでん体育館　9:40～

外国人避難者相談対応



【札幌市】
災害時外国人センター
【余市町】
余市町総合体育館
10:00～11:20

ドローンを活用した住民広報



【古平福祉会　共働の家】
11:30頃
14:10頃

孤立住民救出(ヘリ)



【神恵内村】
珊内防災広場　離陸
13:00
【余市町】
アップルポート余市　着陸
13:15

車両中継ポイント運営



【余市町】
北後志消防組合余市消防署
9:00～13:00

複合災害に伴う避難所開設・運営
【余市町】
余市町総合体育館
9:30～11:20

安定ヨウ素剤緊急配布
【神恵内村】
バス車内　10:00頃
【積丹町】
バス車内　10:30頃
【古平町】
バス車内　9:30頃
【余市町】
バス車内　9:50頃

孤立地域における物資等輸送



【小樽港】
車両による搬送　11:00
↓
【マリンハウス古平前】
ドローンによる搬送　13:00
↓
【共働の家】
物資受取　13:00

被ばく傷病者搬送



【泊発電所】
救急車搬送　9:00
↓
【岩内協会病院】
傷病者受入、除染　10:10
↓
【岩内町新港東ふ頭】
ヘリ搬送　10:30
↓
【丘珠空港】
救急車搬送（想定）　11:25
↓
【北海道大学病院】
傷病者受入、除染　13:30

UPZ住民一時移転開始



【神恵内村】
神恵内村役場　10:25～
【積丹町】
積丹町総合文化センター
10:55～
【古平町】
古平町役場　9:40～
【余市町】
余市町総合体育館　10:15～

一時滞在場所での旅行代理店によるホテル等確保
札幌市東区体育館
11:30～14:00

車両動態管理・情報伝達



【オフサイトセンター】
8:30～15:30

住民広報（全面緊急事態）
道HP・X、ヤフー防災速報
アプリ、防災行政無線等
10:20頃

道路カメラ映像伝送



【オフサイトセンター】
10:20～10:30

住民広報（一時移転）
道HP・X、ヤフー防災速報
アプリ、防災行政無線等
11:30頃

道路カメラ映像伝送
【オフサイトセンター】
11:50～12:00

ドローン映像伝送
【オフサイトセンター】
13:20～13:30
14:00～14:10

緊急時モニタリング





〇モニタリングカーの出動
OFC出発　9:00～
〇可搬型モニタリングポストによる代替測定
余市町豊岡老人寿の家
モニタリングポスト
10:00頃

避難退域時検査







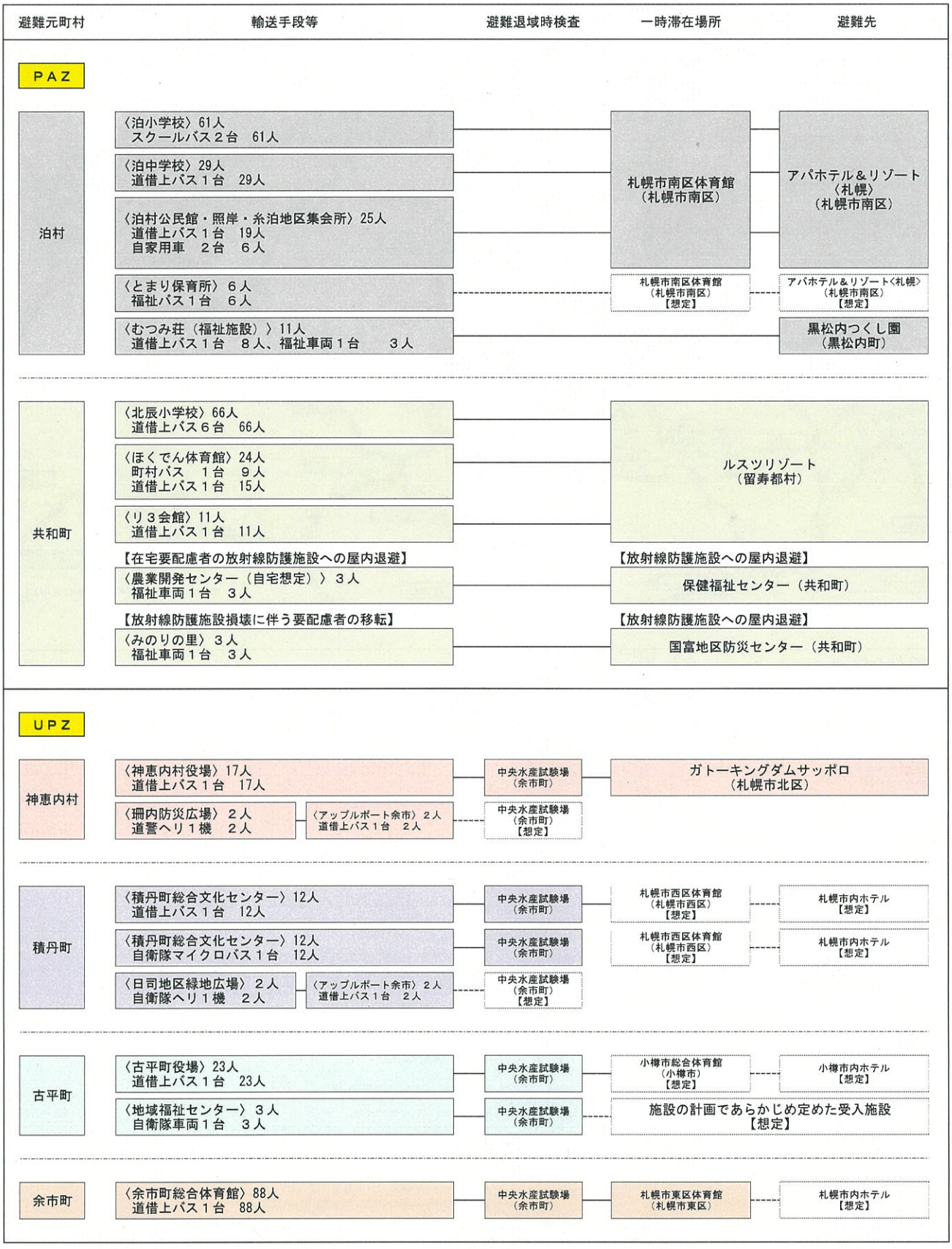


北海道立総合研究機構
中央水産試験場
（車両検査・住民検査）
10:00～14:00

泊発電所事故拡大防止
【泊発電所】
12:50～

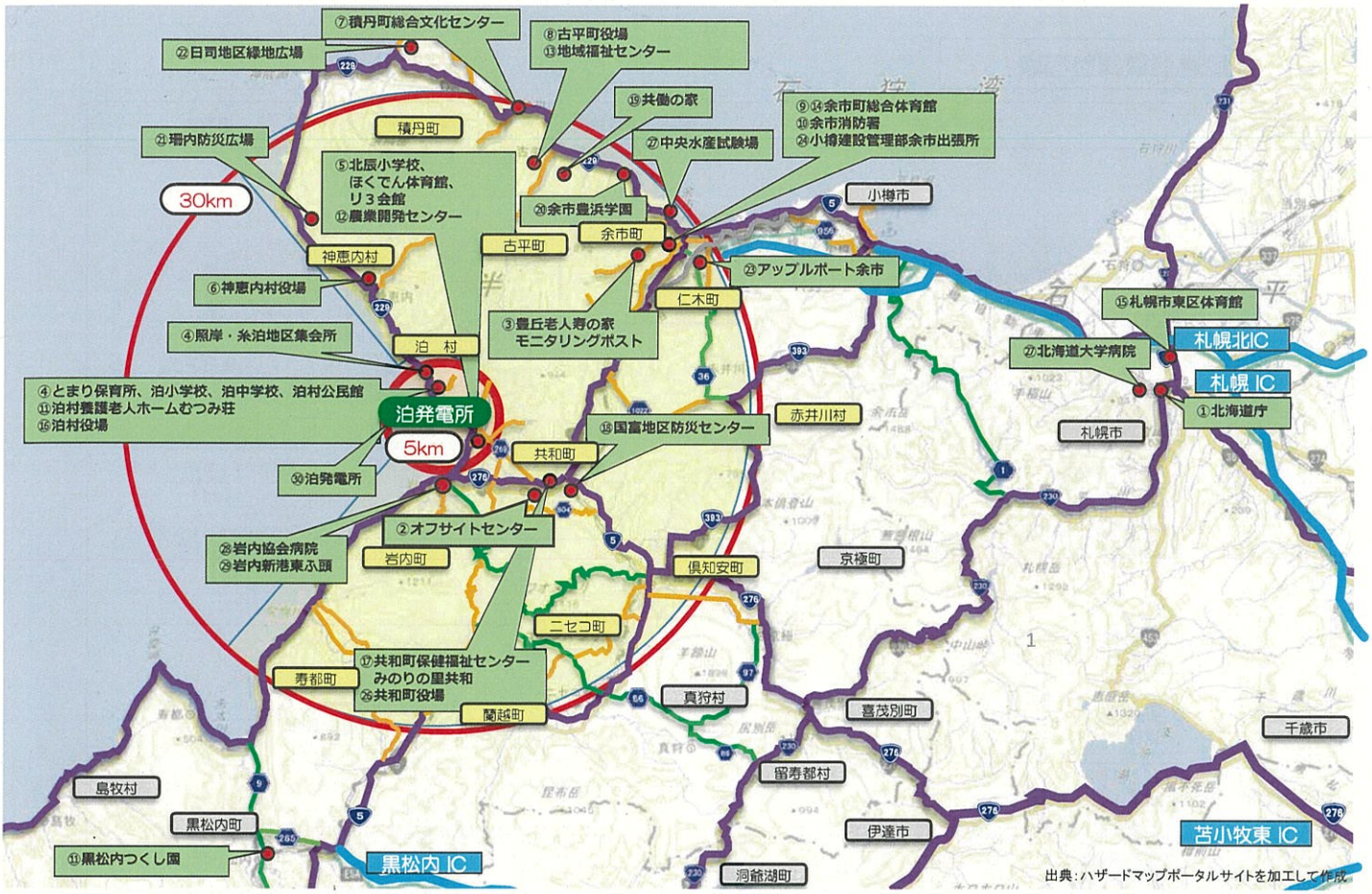
16:30	訓　練　終　了

10　住民避難訓練整理表



※運送手段等の人数は一般住民、役場職員、道職員も含む人数

令和７年度（2025年度）北海道原子力防災総合訓練の主な実施場所



出典：ハザードマップポータルサイトを加工して作成

①北海道庁（札幌市中央区北3条西6丁目）	8:30～15:30 10:00～11:20	災害対策本部等設置運営訓練 外国人避難者相談対応訓練
②オフサイトセンター（共和町南幌似141-1）	8:30～15:30 9:00～ 8:30～15:30	緊急事態応急対策等拠点施設運営訓練 緊急時モニタリング実動訓練（走行サーベイ車（モニタリングカー）の出動） 車両動態管理・情報伝達訓練
③豊丘老人寿の家モニタリングポスト（余市町豊丘町644）	8:30～11:00	緊急時モニタリング実動訓練（可搬型モニタリングポストによる代替測定）
④とまり保育所（泊村大字堀株村字滝ノ澗223−3） 泊小学校（泊村盃村134-1） 泊中学校（泊村茅沼村南坂ノ上6-3） 泊村公民館（泊村茅沼村172-7） 照岸・糸泊地区集会所（泊村25）	9:15～ 9:15～ 9:15～ 10:25～ 10:25～	泊村住民避難訓練 とまり保育所 泊小学校 泊中学校 泊村公民館 照岸・糸泊地区集会所
⑤北辰小学校（共和町発足2900） ほくでん体育館（共和町宮丘184-34） リ３会館（共和町発足123-3）	9:20～ 9:40～ 10:25～	共和町住民避難訓練 共和町要配慮者避難訓練 ほくでん体育館 リ３会館
⑥神恵内村役場（神恵内村81-20）	10:25～	神恵内村住民避難訓練 神恵内村役場
⑦積丹町総合文化センター（積丹町美国町船澗48）	10:55～	積丹町住民避難訓練 積丹町総合文化センター
⑧古平町役場（古平町浜町50）	9:40～	古平町住民避難訓練 古平町役場
⑨余市町総合体育館（余市町入舟町420）	10:15～	余市町住民避難訓練 余市町総合体育館
⑩余市消防署（余市町黒川町６丁目25番地２）	9:00～13:00	車両中継ポイント運営訓練
⑪泊村養護老人ホームむつみ荘（泊村茅沼村711-3） 黒松内つくし園（黒松内町黒松内562-1）	9:15～10:30 13:35～14:15	泊村要配慮者避難訓練（養護老人ホームむつみ荘　→　黒松内町つくし園） 放射線防護施設への物資緊急輸送・燃料供給訓練（養護老人ホームむつみ荘）
⑫農業開発センター【自宅見立て】（共和町宮丘184-11）	9:30～10:10	共和町要配慮者避難訓練 農業開発センター　→　共和町保健福祉センター
⑬地域福祉センター（古平町浜町711番地）	13:20～13:50	古平町要配慮者避難訓練 地域福祉センター　→　中央水産試験場
⑲余市町総合体育館（余市町入舟町420）	9:30～11:20	複合災害に伴う避難所開設・運営訓練 衛星機器設置作業
⑮札幌市東区体育館（札幌市東区北27条東14丁目3-1）	11:30～14:00	一時滞在場所での旅行代理店によるホテル等確保訓練
⑯泊村役場（泊村茅沼村臼別191-7）	8:40～9:10	放射線防護施設運営訓練
⑰共和町保健福祉センター（共和町南幌似57-12） みのりの里共和（共和町南幌似57-12）	8:45～10:10 9:30～10:10 11:35～12:20	放射線防護施設運営訓練 共和町要配慮者避難訓練（農業開発センター　→　共和町保健福祉センター） 放射線防護施設の損壊に伴う要配慮者移転（みのりの里　→　国富地区防災センター）
⑱国富地区防災センター（共和町国富31-1）	10:20～11:55	放射線防護施設運営訓練
⑲共働の家（古平町歌棄町204-9）	10:00～14:45	放射線防護施設運営訓練 エアテントの展開 巡視船による物資緊急輸送訓練（小樽港　→　古平港　→　マリンハウス古平前→　共働の家） ドローンによる住民広報及び土砂災害状況調査、緊急物資搬送作業
⑳余市豊浜学園（余市町豊浜町293）	10:00～10:40	放射線防護施設運営訓練
㉑珊内防災広場（神恵内村大字珊内村256）	12:50～13:20	孤立地域からの空路（ヘリ）避難訓練（ヘリ：珊内防災広場　→　アップルポート余市）
㉒日司地区緑地広場（積丹町日司町字日和山120）	8:30～9:55	孤立地域からの空路（ヘリ）避難訓練（ヘリ：日司地区緑地広場　→　アップルポート余市）
㉓アップルポート余市（余市町登町742番地9）	9:50～13:20	孤立地域からの空路（ヘリ）避難訓練（ヘリ：珊内防災広場、日司地区緑地広場　→　アップルポート余市）
㉔小樽建設管理部余市出張所（余市町黒川町1248）	11:00～11:50	道路啓開訓練
㉕神恵内村避難経路	11:00～13:00	避難経路緊急迂回誘導訓練（ブラインド方式）
㉖共和町役場（共和町南幌似38-2）	8:35～	安定ヨウ素剤緊急配布訓練
㉗中央水産試験場（余市町浜中町238）	10:00～14:00	避難退域時検査訓練
㉘岩内協会病院（岩内町字高台209-2） 北海道大学病院（札幌市北区北14条西5丁目）	9:00～15:00	被ばく傷病者緊急搬送訓練（北海道大学病院受入13:30頃）
㉙岩内町新港東ふ頭（岩内町大浜）	9:00～15:00	被ばく傷病者緊急搬送訓練（北海道大学病院受入13:30頃）
㉚泊発電所（泊村堀株村）	9:00～15:00 12:50～13:30	被ばく傷病者緊急搬送訓練（北海道大学病院受入13:30頃） 泊発電所事故拡大防止訓練

12　事前準備・結果報告等

（1）会議等

地元自治体や防災関係機関との会議等を開催し、訓練計画・項目・内容などについて、協議・調整を行うとともに、実施結果について報告を行った。

開　催　年　月　日	会　議　名　等
令和７年　４月２５日	原子力防災関係機関担当者会議（国、関係 13 町村、防災関係機関）
令和７年　８月　８日	原子力防災に関する連絡会議（関係市町村）
令和７年１０月１４日	原子力防災関係機関担当者会議（国、関係 13 町村、防災関係機関）
令和８年　１月２６日	北海道防災会議

（2）北海道防災会議原子力防災対策部会専門委員会

北海道防災会議原子力防災対策部会専門委員から訓練内容について専門的見地からの意見を伺うとともに、有識者専門委員（学識経験者）による訓練視察を行った。

・令和７年１０月１４日　　有識者専門委員会
・令和７年１０月２９日　　有識者専門委員による訓練視察

（3）住民等への周知

訓練の実施について、道及び関係 13 町村のホームページや広報誌への掲載のほか、「原子力防災だより」等の各戸への配付を通じて、住民への周知を行った。

・令和７年　９月～　　関係町村広報誌に掲載
・令和７年１０月　　「原子力防災だより」を後志総合振興局管内の全戸に配付
・令和７年１０月　　「訓練リーフレット」を関係１３町村の全戸に配布
・令和７年１０月　　道ホームページに「訓練実施要綱」、「原子力災害に備えた屋内退避マニュアル」掲載
・令和８年　４月　　記録動画を YouTube で公開

（4）その他

・令和７年１０月　２日　　北海道議会総務委員会に訓練実施計画を報告
・令和７年１１月２５日　　北海道議会総務委員会に訓練実施結果を報告

第３　課題等整理表

1　総合訓練

〈関係機関等事後調査結果〉

（１）災害対策本部等設置運営訓練に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
●ＮＩＳＳの添付ファイルが開けなかったため、事前の設定をしておくべきだった。	Edge で NISS に接続した場合、添付ファイルの拡張子を変更しなければ開けないため、NISS に接続するブラウザを Firefox に変更し、添付ファイルをスムーズに開けるよう改善する。
○関係１３町村が参加する第１回原子力災害対策協議会全体会議について、町長の発話等含め整斉・円滑に実施できた。	関係機関と協議し、より実践的な訓練となるよう努める。
○昨年同様、第１回原子力災害合同対策協議会全体会議前に町災害対策本部員会議を実施し、事故の概要及び今後の町の対応要領の徹底等会議実施要領について訓練することができた。	
●各市町村での意思決定する場がなく町村の災害対策本部としての本部活動（情報収集・報告及び判断、庁内への指示・関係機関への調整・要請など）の錬成が不十分	各町の災害対策本部と OFC の情報共有等について、会議開催のタイミングなど、実際の発災時の時間を想定した訓練シナリオを構築する。

（２）緊急事態応急対策等拠点施設（OFC）運営訓練に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
○複合災害時における防護措置に係る関係機関との調整を実施できた。	関係機関と協議し、より実践的な訓練となるよう努める。
○OFC 内へのアナウンス及び関係自治体へのアナウンスに館内放送、一斉指令送信機を利用していた。情報共有の漏れを防止する方法としては有効に活用していた。	より実効的な体制となるよう必要な整備等について、引き続き、内閣府及び原子力規制庁に要望していく。
●避難や一時移転に影響しない気象シナリオ・実気象だったため、住民安全班内でアドバイスできる機会がなかった。今後の訓練では、台風や暴風雪など避難や一時移転に影響する気象シナリオの使用の検討が必要。	より実効的な訓練となるよう関係機関と協議し、状況付与の内容等について検討していく。
●全体の流れを把握でき、今後の資とできたが、空自として対処する事案はがなかった。	
●避難・一時移転対象外の自治体職員など、訓練中活動があまりなかった要員が見られた。できるだけ多くの人が活動できるような命題を、シナリオに盛り込むことが望まれる。	

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
○班長の指示のもと、役割分担、班内の情報共有をはじめ、全体的に非常にスムーズに対応する事ができた。訓練に慣れている方が班長を担ってくれていたので、指示も適格で班内のやりとりもスムーズだった。慣れた人が一人はいた方が結果的に初心者のレベルアップに繋がると思う。	各機能班において、班長の指示のもと、訓練開始前の役割分担を徹底する。
●要員数に対して PC が不足していた。また、プリンターが少なく印刷に時間が掛かってしまいタイムロスがあった。PC やプリンタの台数の増加が必要。	より実効的な体制となるよう必要な整備等について、引き続き、内閣府及び原子力規制庁に要望していく。
●館内の放送が聞こえづらい場面が複数回あり、全体の状況把握がしづらい事があった。	
○班内および住民安全班、実動機関リエゾンとの間においては適時適切に情報共有を行い、孤立地区の救助、物資搬送、渋滞等の各事案への対処は迅速に実施出来たものと思う。ヘリによる救助については、離着陸可能場所についてあらかじめ確認しておくと調整がスムーズとなる。	関係機関と協議し、より実践的な訓練となるよう努める。
○各実動機関（警察、自衛隊、消防、海保および国交省）の最新の活動状況について、定期的に実動グループから確認を行いホワイトボードに記載することで班内の情報共有が図られていた。	
○班員参集時点の状況説明とこれからの訓練内容の概要説明が班長よりあり、活動初期段階の班内状況の取りまとめと認識共有が円滑に行われた。	
●参集要員について、少なくとも関係機関 3 名位は集結しなければ実災害が発生した場合は対応出来ないと思います。代替えでは対応しきれないと思います。	研修会や訓練等を通じて、各機能班の運営や要員の役割等について周知するなど、要員の対応力向上に努めていく。
●電話のメモを事前説明資料に記載している事例が見られた。電話メモは重要な記録として保管するものなので、規定の様式を使用する必要がある。メモの重要性と様式について、訓練説明等で周知徹底することが望まれる。	
○ＮＩＳＳ、主要活動ボード、地図、ホワイトボード等のツールを活用し、班内外との情報伝達、共有が適切に実施されていた。一部にＮＩＳＳの操作に不慣れな様子も見られたので、訓練や演習に繰り返し参加し、ツールの活用や操作に、より習熟することが望まれる。	NISS 等の操作について、担当者が変わることも想定し、引き続き、習熟を深める。

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
●各実動機関の最新の活動情報を入手した際は、一旦ホワイトボードを消してから最新の情報を記載していたため、過去の活動状況を確認することができなくなっていた。ホワイトボードの記載に当たっては紙や透明シートを活用する、あるいはＮＩＳＳにも登録するなどして過去の情報も確認できるようにすることが望ましい。	より実効的な体制となるよう必要な整備等について、引き続き、内閣府及び原子力規制庁に要望していくとともに、NISS 等の操作について、担当者が変わることも想定し、引き続き、習熟を深める。
●訓練前半の住民広報状況把握については問題無く取り纏められていたが、訓練後半(スキップ後)の住民広報状況把握に関しては、未回答市町村へのフォローアップが的確にできていないように見受けられた。要求期限を可能な限り守れるように町村へのフォローアップ等を実施するとともに、期限内にまとまった情報だけでも先行して報告するようにするべきと考える。	速報として未回答の自治体を除き報告するなど、臨機応変な対応を行う訓練を実施する。
●机上に設置された FAX 受信ランプが点灯したまま放置されていたり、ホワイトボードも使用している形跡がなかったりと、資機材の有効活用に課題が見られた。	内閣府主催の「原子力災害現地対策本部演習」や総合訓練の事前説明会を通じ、各機能班のメンバーで情報を共有するため、ホワイトボード等の効果的な活用方法を周知する。

（3）緊急時通信連絡訓練に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
○町計画による、学校、福祉施設及び観光協会等との連携訓練も実施した。また、計画された全ての報告を、昨年度より迅速に実施できた。	各町村において適切な情報共有ができるよう、研修会や訓練等を通じて、防災担当以外の職員についても対応力向上を図るよう努める。
○OFC への住民広報実施の連絡など問題なく実施できた。	
○原子力防災ＮＷを使用して、原子力災害時の情報共有要領について確認できた。	

（4）緊急時環境放射線モニタリング訓練に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
●情報処理班にて訓練を行ったが、上申すべき情報の区別が難しく、最初の訓練では全ての情報を上申していた為、必要な情報が伝わり辛かった。システムに流れてくる大まかな情報の種類と、上申すべき情報（センターが知りたい情報）を最初に予備知識として知っておきたい。	上申すべき情報の判断ができるよう、毎年開催しているモニタリング講習会の内容に反映する。

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
●基礎知識等の参考資料があれば、要所要所で確認し、知見を広げられる。研修はあったが、本番に調べる必要も出てくる筈なので、参考資料を設置して欲しい。	引き続き、モニタリング講習会にて基礎知識の習得を図るほか、EMC ブースに配置する参考資料の見直しを行う。
○訓練について練習を繰り返し実施していたため、情報伝達や、ホワイトボードへの資料の取りまとめ等、円滑に進行する事が出来た。	引き続き、モニタリング講習会および訓練を継続し、モニタリング要員の能力向上に努める。
●放射線物質放出前後の訓練を出来ていないので、今後実施出来る様にして頂きたい。EMC としては放出前後の判断、対策が重要となるはず。	次年度のモニタリング講習会および訓練で実践できるよう、検討する。
●手順が分かりにくかった。特に連絡するタイミングとサンプル返却の流れなど。指示書の記載の充実化が必要。	指示書の記載内容の充実化を検討する。
○受信内容、発信内容ともセンター長のチェック等適切な手続きにより管理されていた。特にモニタリング実施計画の修正に当たっては時間をかけ慎重に行われていた。	引き続き、確実な修正や確認作業に努める。
○NISS 等のシステムを適切に注視し情報の収集を図っていた。今回の訓練では定時報等 NISS でのやり取りが主であり口頭での周知があまり見られなかった。EMC 全体の周知にはポイントで口頭での周知も有効な場合があるので口頭での周知も積極的に取り入れることが望ましい。	引き続き、NISS を中心とした確実な情報収集・発信に努める。また、即座に情報共有が必要な事項など、状況に応じて口頭での周知もできるよう、モニタリング要員の対応能力向上に努める。

（5）広報訓練に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
○防災無線での屋外・戸別の放送やエリアメール配を滞りなく行うことができた。	引き続き訓練や研修等を通じ、要員の対応力向上に努める。
○ドローンの広報訓練により、上空からの迅速で広範囲な活動が可能になり、災害時での対応力が向上した。	
●上空での機体位置が風の影響を受けやすいため、気象条件を踏まえた飛行ルートの再設定と補正操作の強化が必要。また、広報音声の指向性が十分ではなく、一部地域での聞き取りづらい箇所があったため、スピーカーの出力の調整や、機体角度の最適化を検討する必要がある。	飛行ルートやスピーカー出力の調整などにより実効的な広報を実施できるよう、関係機関と協議し、検討していく。
●今回は短距離での広報活動であったが、今後は長距離の広報訓練及び夜間想定の訓練も考慮すべき。	

（6）住民避難訓練に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
●参加住民アンケートで、「職員による誘導や説明を増やしてほしい」旨の意見があった。	より実効的な訓練になるよう、関係機関と協議し、訓練内容を検討していく。
●訓練の実施項目が多すぎるため、実効性がない。メディア受けするような訓練は１つだけにして、その他は実用レベルの訓練のみに絞るべき。	
○JTB による避難先マッチングにより、有事の際の新たな可能性を見出せた。	
○ヘリによる住民避難において、ホイストでの実施により、住民に対し避難要領を教育・普及できた。来年度の訓練においても実施し、他町村住民に対してもホイストでの住民避難要領を教育・普及していくことが必要。	ヘリコプターを運用する訓練に関しては、引き続き安全を最優先に考慮した訓練計画を検討する。
●案内役警察官が待機所からヘリポートまで避難役を走らせて搭乗させていたが、ヘリのプロペラが回っている下で走るのは危険に感じた。	
○避難所内における行き先の掲示は３言語併記してあり、待機場所である研修室までの動線が非常に分かりやすく、また訓練自体もスムーズに行われた。立入不要な箇所に、立入禁止であることの明示等の区分をすることで、より動線が明確になる。	関係機関と協議・検討し、引き続き外国人を含む住民へのわかりやすい会場設営・状況説明に努める。
●日司地区からのヘリ降機後に乗車するバスが、ヘリ到着までに　到着していなかった。充分に予定を把握し、バス到着の遅れがないようにする必要がある。また、遅れる場合を想定し、連絡方法・連絡手段についても確立しておくことが望ましい。	バスが到着しない場合の対応など、実際の災害対応を意識した想定を行い、より実効的な訓練になるよう、関係機関と協議し、検討していく。
●物資積み替え作業時、１人でドローンまで運搬していたが、物資の重量や体積等を考慮すると、躓き、転倒等を防止する観点から 2 人で運搬作業を行うことが望ましい。	より実効的な訓練になるよう、引き続き、関係機関と協議し、訓練内容を検討していく。
○マリンハウス古平を出発したドローンが問題なく共働の家に併設されているグラウンドに物資を運搬できた。なお、強風、荒天等天候条件が悪い場合、ドローンの使用は不可となることから孤立地域への物資の輸送手段は複数考慮しておくことが望ましい。	
○一時集合場所である神恵内村役場から、避難所となるガトーキングダムまでのバス避難を行っている際に、OFC 住民安全班からバディコムでの連絡により避難経路が迂回路へ変更となったが、迂回路の伝達等、バス住民への説明も迅速に行われ、円滑に迂回路での避難が行われた。	

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
○車両中継ポイントでは、事前に用意している資料に沿って、バスやトラックの運転手に、資機材の取扱いなどを丁寧に説明していた。	引き続き、訓練や研修等を通じ、説明要員の対応力向上に努める。

（7）原子力災害医療活動訓練に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
●安定ヨウ素剤配布判断について不明点が多く、困難であった。	事前の研修会等を通じて、安定ヨウ素剤についての知識習得を促し、対応力向上に努める。
●北海道大学病院の処置室内に設定した管理区域内からの退出方法が、弘前大学と北海道電力との間で認識に違いがあった。訓練後に弘前大学と認識合わせを行ったので、退出方法を整理した資料を作成し、弘前大学と同様の退出手順で実施できるようにする。今後も、事前打合せで搬出手順を確認し、訓練時にはその内容に沿って実施できるようにする。	より実効的な訓練となるよう、引き続き、事前打ち合わせ等で関係機関と協議し、訓練内容・方法を精査し、訓練効果が高まるよう検討していく。
○今年度の訓練では、昨年度までの傷病者 1 名対応からレベルアップし、同時に 3 名の傷病者を想定した対応訓練を実施した。複数傷病者対応のため、余市協会病院、倶知安厚生病院、北後志消防組合、羊蹄山ろく消防組合にもご参加頂くことで、搬送・処置、3 台分の救急車養生、処置室養生など、例年よりも多岐にわたる作業を、各参加者・参加機関が連携・協力して完了することができた。	より実効的な訓練になるよう、引き続き、関係機関と協議し、訓練内容を検討していく。
○配置要員には個人線量計が配布され、個人の被ばく管理を行っていた。避難退域時検査の訓練終了後、記録簿への記録、管理までを訓練として行われるとよいと思われる。	
●避難退域時検査訓練では人数分の椅子が必要。待機時間が長く、立ちっぱなしは負担が大きい。	会場のレイアウトやスケジュールなどについて、より実効的な訓練となるよう関係機関と協議・検討していく。
○住民検査場所においては、誘導ルートの床及び壁に導線が明確になるよう表示（矢印、検査表示、色分け等）がなされていた。また、今回の訓練では外国人住民の参加はなかったが、誘導ルートに外国語による表示もされていた。日本語での印刷物等の掲示もあると更によいと思われる。	引き続き関係機関と協議し、避難住民の誘導について、わかりやすくなるよう、会場設営の改善に努めていく。
●車両一時待機場所の表示が、「駐車場」となっていた。他の表示場所と同様に、実施要領どおり「車両一時待機場所」とすることが望ましい。	国のマニュアルを踏まえ、より適切な会場配置や要員装備について、関係機関と協議・検討していく。

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
●避難退域時検査全体レイアウト図が表示されていなかった。汚染エリア、非汚染エリア、簡易検査、簡易除染等の実施場所が分かるようなレイアウト図の掲示があるとよいと思われる。	引き続き関係機関と協議し、誘導方法、要員配置などを精査して、避難住民へわかりやすい会場の設営等に努めていく。
●住民検査終了後、バスに乗車するまでの一時待機場所と指示が明確になされていない場合があり、住民がまとまって移動できていなかった。車両の除染が完了するまでの待機場所の表示及び明確な誘導が必要と思われる。	
●避難退域時検査場所で実施される空間線量測定（バックグラウンドの測定）が確認できなかった。避難退域時検査場所の汚染確認のためにも定期的な空間線量測定が行われているよい。	避難退域時検査会場での空間線量測定（バックグラウンドの測定）の表示について検討する。

（８）物資緊急輸送訓練に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
●天候悪化による輸送ルート変更時における対応要領が浸透しておらず、物資受領が若干遅延した。現場担当者が配置されていない場所における、作業実施状況について責任者等が確認するか、実施者に報告を求める必要性がある	訓練内容・方法を精査し、訓練効果が高まるよう検討する。
○中継ポイントでの説明は１対１の対面で行われ、丁寧で分かりやすかった。緊迫・騒然とした場所で、複数人へ説明するには、マイクなどの音響設備も必要と思われるが、説明用の動画を作成しテレビモニターを活用することで、視覚的な説明と音量調整が可能ではないか	引き続き、関係機関と協議し、より実効的な訓練となるよう務める。
○作業員はタイベック、手袋など放射線防護装具を適切に着用するとともに、荷下ろしから物資搬入、撤収まで、指差呼称をしながら撤収作業まで円滑に作業が行われていた。	

＜北海道防災会議原子力防災対策部会専門委員による評価結果＞

（１）緊急事態応急対策等拠点施設（OFC）運営訓練に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
○班ごとに区画が整理され、分かりやすかった	引き続き、関係機関と協議し、より実効的な訓練となるよう努める。
○総合会議は具体的な事故の設定、道路閉鎖、孤立地区の情報共有など、緊張感を持って行われていた	
○落ち着いて流れよく運営されていた。	
●一部の区画から、訓練中であるが多人数の大きな笑声が聞こえたのは気になった。張り詰める必要はないと思うが、緊張感を欠いても良くないと感じる。	研修会や訓練等を通じて、各機能班の運営や要員の役割等について周知するなど、要員の対応力向上に努めていく。

（２）住民避難訓練に関すること

課題・指摘（●）・良好事項（○）	対応（方向性）・助長策
○ドローンを用いた広報や物資輸送など、比較的新しい技術を実施することは重要と感じた	引き続き、関係機関と協議し、より実効的な訓練となるよう努める。
●孤立地区からの救助は一度のヘリ輸送では終わらない事が予想される、ヘリからバスに移動する際に、救助された方の待機場所が必要と感じました	ヘリ救助場所のレイアウトなどについて、より実効的な訓練となるよう関係機関と協議・検討していく。
●広報ドローンは英語にも対応していて、感心した。日本語に比べて聞き取りにくく、もう少しゆっくり英語を喋るようスピード調整ができたら良いと感じた。	ドローンによる音声再生スピードなどについて、より実効的な訓練となるよう関係機関と協議・検討していく。
○スムーズにヘリコプターによる着陸、避難民のバスへの乗換、ヘリの離脱が行われていた。	引き続き、関係機関と協議し、より実効的な訓練となるよう努める。

◆令和８年度（2026 年度）訓練に向けた検討項目◆

○ 意思決定訓練（OFC、災害対策本部など）の充実

・OFC 等の意思決定と住民避難等の実動の連動を通じた総合的な対応能力の向上
・事態の推移に応じた円滑な配備体制の構築と防護措置の検討・実施
・防災業務関係者の様々な事象に対する即応力の向上
・関係機関との調整などブラインド要素を盛り込んだ状況付与による
訓練内容の一層の充実

○ EAL、OIL に基づく防護措置に係る訓練の充実

・能登半島地震で生じた事態を想定した訓練の実施
・様々な自然災害との複合災害など厳しい状況下を想定した訓練の充実
・地域の特性等を踏まえた孤立地域の想定と実動機関との連携による対応力の強化
・幅広い住民の訓練参加に向けた普及啓発
・住民・要配慮者の円滑な避難に向けた関係機関・民間事業者の連携強化
・防災活動に従事する民間事業者等の安全確保対策の充実と連携強化
・外国人観光客等の円滑な避難誘導に向けた観光事業者の理解促進

○ 原子力災害医療活動訓練の充実

・避難退域時検査（住民検査）における実施体制の強化
・安定ヨウ素剤の円滑な配布
・傷病者搬送における関係機関の連携強化

○ 緊急時環境放射線モニタリング訓練の充実

・EMC を拠点としたモニタリングの統括、関係機関との連携

○ 要素訓練の実施

・通信連絡訓練や個別課題に特化した訓練等の充実